


令和7年度 公私幼保合同研修まとめ



大阪市保育・幼児教育センター



令和7年度 公私幼保合同研修 実施一覧（計58回）

研修名	回数	掲載ページ
資質向上研修会	4	P 1
教育・保育理論研修会	6	P 2
人権保育研修会	3	P 3
安全・危機管理研修会	5	P 3
特別支援教育・保育研修会	5	P 4
子どもの健康研修会	5	P 5
タイムリー研修会	5	P 6
マネジメント研修会	4	P 7
看護職・養護教諭研修会	3	P 7
子育て支援研修会	4	P 8
地域型保育事業研修会	1	P 8
就学前教育カリキュラム研修会	4	P 9
保幼小連携・接続研修会	2	P 9
施設長研修会	4	P10
主任・ミドル級研修会	3	P10

◎認可外保育施設もすべての研修会の受講対象

資質向上研修会(全4回)

日時	テーマ	講師	内容
6月26日 (木)	事例をもとに考える、 子ども理解と援助について —子ども理解を深める記録とは—	四天王寺大学 准教授 門谷 真希氏	記録は義務的なものと個人的なものに分かれるが、保育の記録は子どもの成長を振り返ったり、保護者に様子を伝えたりするために必要であり、公的なものでなくても良いので保育者の思いが入ったものも書き留めておくで大変役立つと学んだ。また、保護者から情報開示を求められた際は記録を見せる場合があるため、偏った記録にならないように注意がいるとお話いただいた。ワークの中では記録について意見交換をし、自分とは違う視点や考えを聞くことが大切で、普段から職員間で記録を見せ合うことで子どもを深く知ると共に、自分の保育観が見えてくることを理解した。
8月21日 (木)	子どもの自己信頼性を育む保育者の役割 —発達と集団づくりの観点から	京都府立大学 教授・学部長 服部 敬子氏	子どもの「発達の原動力」を信頼すること、全ての子どもに共通する発達のすじみちがあること、個別対応には限界があり、丁寧な受け止めが必要な子どもが多くなっている現状があるため、子ども同士が声を聴き合い受け止め合う関係をつくっていく必要があることを学ぶ。集団づくりの中で、存在に気付き、興味をもつところから始まり、お互い良いところだけでなく苦手なことや不安なことも認め合う集団づくりをしていくことが大切であることを学んだ。
9月19日 (金)	遊びを中心とした指導計画と 子ども理解に基づいた記録・評価について	大阪教育大学 教授 中橋 美穂氏	主体性と自主性の違いや、子どもの主体性を育むための保育者の役割として「遊び」を大切にすること、子どもの主体的な思いや行動を理解することを学んだ。子どもの言動の意味を読み取り、次の保育を構想するため、また情報を共有するための記録の大切さを教えていただき、カリキュラムマネジメントについて考える機会となった。グループワークでは、動画を見て子どもの育ちについて各自考えを付箋に書き、グループで分類したり、構造化したりして他のグループの考えも共有し合った。
11月18日 (火)	こどもをまんやかにする保育 ～不適切保育の防止と保育者の質的向上	武庫川女子大学 教授 倉石 哲也氏	令和7年10月1日に施行された改正児童福祉法において、保育所等の職員による虐待に関する通報義務等について学んだ。 児童福祉法改定の意義や、虐待と判断される行為の指標や虐待に係る判断プロセスを知った。虐待が保育者自身のストレスから起きることもあると知り、不適切保育防止には保育実践の振り返りや相談しやすい職場環境をつくるのが大切であることを学んだ。グループワークでは他園所のことを知る機会にもなった。

教育・保育理論研修会（全6回）

日時	テーマ	講師	内容
7月28日 (月)	保育に生きる指導計画 一目の前の子どもの姿から	大阪大谷大学 教授 長瀬 美子氏	保育における「指導計画」は、P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)の前に「子ども理解」がある。子どもの育ちに願いをもちながら計画を立てることで「こんな保育がしたい」と思いを新たにできることや、書くことにより「整理」「意識化」「共有」ができる。子ども理解こそ計画作成のポイントで、「育ちつつある姿」と「これから育ってほしい姿」が見えてくることで、次に何ができるようにしてほしいか課題が出てくることを学んだ。グループワークを通して、共感したり、いろいろな考えを知ることができたりして、自園所の子どもを振り返り、保育に生きる指導計画への意識が高まった。
8月29日 (金)	幼児の体験を豊かにするICT活用法	関西国際大学 准教授 棕田 善之氏	子どもたちの遊びや体験を、より豊かにできるICTの活動例や活用方法を知り、「こんなふうに活用できる」ということに気付く機会となった。「各園所でICTをどのように活用しているか、または、どのような活用ができるか、どのような学びがあると思うか」などについてグループワークで話し合う。他園所の活用方法を知ること、今後の取組の参考や、ICT活用方法を学ぶ。
9月12日 (金)	指導計画の作成は環境と 豊かな援助から	大阪キリスト教短期大学 学長 山本 淳子氏	指導計画の意義を理解する・環境と援助を基盤とした計画作成の視点を整理する・働き方改革につながるシンプルな計画づくりを考えることについて学んだ。保育の質の向上に向けた取組として押さえておきたいことや、年齢別の子どもの姿の事例についてのグループワークを通して、子どもの姿を理解し、見通しをもった保育が、いかに大切かを改めて知ることができた。
10月23日 (木)	「自分」と「みんな」も楽しめる 造形表現と保育者としての支援	大阪常盤会大学短期大学部 教授 平野 真紀氏	造形活動における表現することの意味や、造形活動で保育者として配慮しておきたいこと等を学んだ。また、実技では、スクラッチやペンのにじみ絵、ハロウィンのお城づくりを実際に体験した。それぞれの体験を通して、子どもへの声かけについてや、子どもの様子に応じた働きかけ、展開の仕方等に気付き、明日からの保育に活かす意欲につながっていた。
11月17日 (月)	赤ちゃんの知覚する世界を知る・・・ 聞こえと援助	同志社大学 助教 赤ちゃん研究センター 研究員 嶋田 容子氏	子どもは、雑音の中では話がよく聞こえておらず、いろいろな音の中から聞きたい音を聞き取ること等が苦手なこと、「ちょうど良い音環境」のもたらしめものとして、言葉をじっくりと聞く・話すことができる、意欲が続く、がまんができる、友達の発話を尊重し会話につながる等、様々なお話をしていた。子どものための音環境創りとして、大きな機械音や常に鳴る機械音を減らすこと、絵本や集中する遊びの「静かな環境」をつくること、吸音材を入れること等を学んだ。
12月22日 (月)	自分の名前で絵本をつくらう！	絵本作家 さいとう しのぶ氏	講師の先生の著書である絵本や、パネルシアターを実際に見せていただいたり、絵本やパネルシアターについて内容の意味や楽しみ方等の話をさせていただいたりして、参加者がワクワクした表情で見入っていた。後半は、自分の名前で絵本をつくった。実際につくってみたことで、『保育の中で、子どもたちと一緒にしてみたい』という意欲が高まった。

人権保育研修会(全3回)

日時	テーマ	講師	内容
7月14日 (月)	子どもの権利とアドボカシー ～言うてええねん！～	大阪人間科学大学 准教授 吉池 毅志氏	子どもの権利について、「子どもの権利条約の4原則」を※尼っ子訳の言葉で分かりやすく学んだ。 ①「差別の禁止第2条」※「なんでやねん」 ②「子どもの最善の利益第3条」※「それがええねん」 ③「生命、生存及び発達権利第6条」※「おってええねん」 ④「子どもの意見の尊重第12条」※「言うてええねん」 また、「子どもの権利」には「遊ぶ」が入っていることを知り、改めて「遊ぶ」ことの大切さを再確認する機会となった。アドボカシー活動とは、思いと声を聴く活動、思いと声を伝える活動、思いと声を生活に反映する活動ということと知り、自分自身の保育を振り返る機会となり、今後、保育に生かしていこうという意識が高まった。
10月17日 (金)	人権保育のいま・これから ～「同和」保育の歴史を通して学ぶ～	大阪大谷大学 特任教授 井上 寿美氏	「同和」保育が取り組んできた「どのような子どもを育てるのか」「そのために何を育てるのか」「保育の中で何を大事にするのか」という項目でお話をいただいた。保育を受けることそのものが子どもの人権であること、人権を大切に環境の中で保育が営まれるために、現在の保育の中で不適切な行為が行われていないか、日々の行為の延長に虐待があると理解すべきであること等、改めて考える機会となった。
1月23日 (金)	保育におけるジェンダー	中部大学 非常勤講師 天野 諭氏	LGBTQ+の子どもが、就学前までに性別違和を感じていることが多いが、性的なことはまだはやいという大人の思い込みにより、保育で性的マイノリティが論じられることは、今もなお少ないことを学んだ。「受け入れられる」ではなくそこに「居る」、認め合える、存在がおびやかされない、誰もがありのままに居られる、多様性がちりばめられて当たり前保育が大切ということをお話していただいた。ジェンダー・バイアスを「植え付けない」保育とは、細かい禁止やルールを増やすのではなく、規範・価値観を緩め、広げていく視点が必要であると学んだ。

安全・危機管理研修会(全5回)

日時	テーマ	講師	内容
5月21日 (水) 5月23日 (金) 6月12日 (木)	救命救急講習Ⅲ	旭消防署 救急隊	心肺蘇生やAEDの使用の手順、喉に物がつまったときの腹部突き上げ法や背部叩打法等の映像を見て学ぶ。その後、グループに分かれて講師の救急隊の方にご指導いただきながら、AEDを使つての心肺蘇生を実際に体験した。
6月13日 (金)	食中毒の予防について	大阪市保健所 北部生活衛生監視事務所 葛山 千紗氏	調乳時の注意事項（調乳前には必ず手洗い・哺乳瓶やスプーンはよく洗い消毒する等）、調理に従事する前には爪は短く切ることや下痢・嘔吐、発熱がある人、手指に傷や化粧のある人は調理作業を控えること等を改めて知った。乳幼児の食事は大人より注意が必要だが、少しの心掛けで食中毒を防ぐことができるため、正しい知識を身に付けることが大切ということを学んだ。
8月5日 (火)	教育保育施設における 重大事故防止のための リスクマネジメントについて	大阪公立大学 名誉教授 関川 芳孝氏	近年のうつぶせ寝やバス、窒息等の事故の事例を改めて確認しながら、重大事故を防止するために、各活動での留意点（プール遊びが始まる前にマニュアルや、過去数年のヒヤリハットを確認する・午睡時、医師からうつぶせ寝を勧められている場合以外は仰向けに寝かせること等）を学ぶ。ヒヤリハット事例を積極的に集める検討をすることは、手間がかかるように思われるが、実は重大事故を防ぐための近道だということ学んだ。
10月20日 (月)	保育施設における事故防止と安全対策 -事故を未然に防ぐ危機管理意識と 災害安全-	関西学院短期大学 教授 幼保連携型認定こども園 関西学院幼稚園 園長 千葉 武夫氏	危機管理とは、安心・安全に過ごすことであり、保育中の事故防止、リスクとは、「気付く」こと、「行動する」ことだということ学んだ。また、育成指標では、職員の資質を計画的に向上させるための段階などを示すということが分かった。保育室の環境構成をスライドで見て、何が危険なのかを具体的に知ることができ、散歩の前に写真を撮ったり、災害時に備えて名札を準備したりするなど、災害時に役立つネット情報を教えていただいた。

特別支援教育・保育研修会（全5回）

日時	テーマ	講師	内容
6月19日 (木)	支援を必要としている 子どもへのかかわり方 ～園生活における特性に応じた対応～	大阪YMCA 総合教育センター 言語聴覚士 加藤 義弘氏	理由や原因から手立てが分かると、状況に適した対応をとることができることを学んだ。多様性を認め合う土台づくりは園での集団生活から始まり、ことばについては、分かることと言えることでは比重が違うこと、家や園で取り組めることを教えていただいた。遊びが育てるもの、子どもに接する際に意識すべきことや、支援方法について詳しく学ぶことができた。
7月9日 (水)	園所の支援体制づくりと 保護者支援	大阪公立大学 准教授 木曾 陽子氏	園所の支援体制づくりとして、理念の明確化と共有、一人ひとり違うことを生かして全員で保育をつくること、重層的に情報共有や連携できる仕組みをつくることを学んだ。また、保護者支援で大切な視点として、保育者は保護者の子育ての「伴走者」となる。子どもへの支援は保護者の気付きを待たずに行い、子どものニーズに合わせた配慮を行うこと、保護者支援は組織的に行い「促す役割」「支える役割」などがあることを知った。保護者対応では保護者の心情を理解し、担任保育者の関わり方、管理職の関わり方について教えていただいた。他園所と悩みを共有することで気付きが得られた。
8月1日 (金)	気になる子の個別のニーズに あわせた支援	大阪市更正療育センター 作業療法士 公認心理師 布市 敦子氏	気になる行動には意味があり訳があることを知り、5つの感覚+2つの感覚について学んだ。幼児期は自分の体に気付き、知っていく段階。分かりにくい感覚の固有覚、前庭覚、触覚に気付き、受け取ることが大切。支援のポイントとして、更衣等支える側を支援し、操作をする側を思考錯誤しながら自分で獲得できるようにすることが大切だと学んだ。ボディイメージの形成につながる遊びや、実際に使われている支援の方法などを、たくさんのスライドを使ってお話いただいた。また、支援グッズも見せていただき、保育につながるヒントを得ることができた。
9月9日 (火)	発達障がい児の理解と支援	関西医科大学 診療教授 石崎 優子氏	小児の発達とは、非定型発達と発達障害を分けて考えて支援する。発達に偏りのある子どもの支援の目標は、非定型の発達を発達障害にしないことだと知った。発達障害の種類と特徴を詳しく教えてもらい、また対応や支援方法を学んだ。ペアレント・トレーニングでプラスの循環になることや、就学前の準備として、幼児期に学んでほしいこと、求められる子どもの支援について具体的に教えていただいた。5歳児健診の大切さを知り、実際、他市で行われている様子などを医師の立場からお話いただいた。
10月9日 (木)	「メリットの法則」と ポジティブ行動支援を子育てに活かす	学校法人 西軽井沢学園 理事長 臨床心理士 奥田 健次氏	全ての行動の裏には必ずメリットがあり、私達が普段無意識に取っている行動はメリットのため、全て意味があるということを知った。直後の結果を置き換え、新しいメリットを足すことで、問題行動がなくなることを知った。行動分析学を実際の事例をもとに、動画を見たり説明を受けたりして、子どもの問題行動をやめさせるのではなく、望ましい行動を意図的に増やすことによって、良い方向に向かうことを学んだ。行動を叱るだけでなく、多方向を伝えることで、子どもが自分で考えて行動できることにつながることも知った。

子どもの健康研修会（全5回）

日時	テーマ	講師	内容
6月3日 (火)	乳幼児期の食物アレルギーについて ～いかに事故を予防し、 緊急時に対処すべきか～	大阪はびきの医療センター 小児科主任部長 アトピー・アレルギー センター長 亀田 誠氏	食物アレルギーが起こり得る状況や原因、エピペンの使用方法について学ぶ。また、アレルギー症状を起こしているときの動画を見ることにより、事故予防や緊急時の対処の重要性を感じ、職員間で共通理解することへの意識が向上することにつながることを学んだ。
7月4日 (金)	学校等欠席者・感染症情報システム (保育園サーベイランスを含む)について	幼保施策部 幼保企画課 担当係長	保育所、認定こども園での感染症対策として、集団発生や二次感染・三次感染を防ぐこと、「早期探知」によって早く対応すること、初動の「連携」が大切であること、日常的に感染症対策をすること、日常から対応策を準備しておくことを学ぶ。また、学校等欠席者・感染症情報システム(保育園サーベイランスを含む)について、実践を交えながら設定の方法や疾患・欠席者等の入力方法を学んだ。
9月18日 (木)	食べる力を育む「食育」 ～体験を通して考えよう～	羽衣国際大学 准教授 金岡 有奈氏	乳幼児の「食育の目的」は、豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けることであり、食べる楽しみの経験を積み重ねること・日々の食事のリズムを身に付ける中で、保育者からの声かけや感情の共有等により食べることへの意欲が生まれるということを学んだ。グループワークでは、各施設の食育活動について話し合い、料理を音で表してみようというお題では、オノマトペで盛り上がった。
10月6日 (月)	保育施設の感染症対策と 予防接種管理について	国立感染症研究所 感染症疫学センター 主任研究員 菅原 民枝氏	感染症を予防する体制を整備し、日常から対策を実施し、発生時には、感染の拡大防止のための迅速で適切な対応が必要である。感染症対策は日常的な対応から、感染症拡大防止策の対応に切り替えることが大事。その方法についてどのようにしたらいいか、切り替えの見極めや、掃除と消毒の違い、消毒方法などを丁寧に教えていただき、見直すきっかけとなった。また、予防接種記録の管理に関することも学んだ。
12月9日 (オンライン 配信)	学校等欠席者・感染症情報システム (保育園サーベイランスを含む)の活用 について～自施設の入力データを活用した 具体的な活用方法(早期探知、保護者 周知等)を学ぶ～	国立感染症研究所 感染症疫学センター 主任研究員 菅原 民枝氏	感染症対策とは、日常的な対応と感染症拡大防止の対応を切り替えることであること、自園所の状況に気が付くことが大事だということを学ぶ。保育園サーベイランスの活用として、入力が目的ではなく、保護者への情報提供のための「情報収集」をすることが大切であり、入力は複数名で行い、他職員との共有も大事だということをお話していただいた。また、実際にサーベイランスの情報を施設で活用した事例に基づいて、学びを深めることができた。

タイムリー研修会（全5回）

日時	テーマ	講師	内容
8月4日 (月)	こどもの心と体を育むわらべうた	わらべうたの会 堀口 真奈美氏	いろいろな「わらべうた」の歌い方、遊び方の実践を通して、1曲のわらべうたの型に捉われず、替え歌などアレンジ次第で、乳児の目線、幼児の目線で遊びの幅が広がることを学んだ。 また、いろいろな人と関わり合いながらわらべうた遊びをすることで、すぐにコミュニケーションがとれたことを実際に体験して、今後の保育に生かしていきたいと意欲が高まった。
9月4日 (木)	幼児だけでなく乳児の思考力も育む 「かがく遊び」の基本	大阪大谷大学 教授 小谷 卓也氏	就学前施設での「かがく遊び」とは、発達段階に適した子どもの考える力（思考力）を育成することを目的とした遊びであることや、「かがく遊び」を保育の中で取り入れる際の具体的な流れ等を教えていただいた。また、ビニール袋を使った「空気遊び」や、様々な素材を使う「音遊び」等、グループで対話をしたり、協力してつくったりして実際に「かがく遊び」を体験した。
11月21日 (金)	かんたん！わくわくシアターづくり 体験	大阪芸術大学 短期大学部 准教授 市毛 愛子氏	5領域の中の「言葉」について触れ、乳幼児期は言葉のやりとりと共に、絵本や物語などに親しむ機会が大事だと学んだ。物語の中の「おはなし」はペープサートや歌でも表現でき、子どもの世界が広がっていくもので、心を豊かに育てるものだとお話しいただいた。「おはなし」は2種類に分かれ、昔から口伝えにしてきた作者不明の昔話や、特定の作者が創作したものがある。どちらも敬意をもって本質を大切に、子どもが初めて聞く話になる可能性もあるため、良い出会いができるように練習をし、心づもりがあると知った。また、講師手づくりのペープサート、エプロンシアター、スケッチブックシアター紹介の後は、実際に制作体験をした。手袋や靴下を使い、発泡スチロール球に目を描いてボンドで貼ると、パペットが手軽な材料で短時間で完成し、保育への生かし方を考えた。
12月10日 (水)	個別の支援計画・指導計画の作成の ポイント	大阪市保育・幼児教育 センター 研修・企画担当 課長代理 吉井 裕佳子	個別の指導計画について、対象児の好きなことは何かを知り、目標をたて、どのような支援をしていくのか見直していくポイントを学んだ。対象児に関わる関係者が協力し、保護者の同意を得て作成する。年度ごとにつなぎ合わせ、それまでの手立てや支援を記入し、小学校へ丁寧に引き継ぐことができる。作成の効果として、職員が同じ視点を共有し、スモールステップでの実践や、成長や達成感を感じられる。施設内の体制づくりについても学んだ。自園所の計画を持ち寄り、支援をすすめるにはどうしたらいいかなど、ヒントを得ることができた。
12月19日 (金)	子どもの世界を感じよう！ 多様な素材で広がる造形あそび	大阪大谷大学 准教授 山本 将之氏	造形支援で大切にしたいこと（過程を大切に等）や造形支援のポイント（環境・導入・褒め方の工夫等）をお話しいただいた。また、実際に造形遊びを体験し、大人もなぐり描きを楽しむことができる体験や、個人の作品がグループの作品として生まれ変わる体験などをし、楽しい研修会となった。

マネジメント研修会（全4回）

日時	テーマ	講師	内容
6月17日 (火)	子どもを尊重できる 保育者集団づくり	大阪常磐会大学短期大学部 教授 学部長 卜田 真一郎氏	職員集団づくり、保育における「理念」「こだわり」の重要性を学んだり、「ユマニチュード（知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションにもとづいたケアの技法）」について、映像を見て学んだりした。グループワークでは、隣の席の保育者と自分が大切にしたい価値観等の話をして交流をした。
7月29日 (火)	保育の質向上を目指す園づくり	玉川大学 教授 田澤 里喜氏	マネジメントは、施設長を軸にみんなでしていくものであり、若い人はマネジメントに関係がないわけではないということや、園づくりで大切にしたいこと【①保育者同士の対話、特に雑談を大切に②業務負担軽減③働きがい④園内研修】等、様々なことを学んだ。子どもが『いてほしい』と思うような先生（いつも笑顔の人、いろんなことを面白がってくれる人、子どものやりたいことを応援してくれる人、安心できる人）になり、他者のために働く意識をもつことが大事だということ学んだ。
8月19日 (火)	保育者の離職を防ぐための 園内体制を考える	大阪公立大学 准教授 木曾 陽子氏	現代では、総合的な働きやすさを求めている職員が多く、調査結果から離職の原因は人間関係が多いと知った。保育者一人ひとりが違うことを尊重しながら、違いを生かすことが大事で、個人的に合う合わないで終わらせず、園の理念を知り、園が大切にしていることを共有することが重要だと学んだ。理念に沿いながら、今の時代に合っているのか見直すことも必要で、誰かが犠牲になることがないように業務負担の軽減や、人間関係（フラットな職場風土）づくりの工夫を教えていただいた。
10月30日 (木)	保育職場におけるマネジメントと 人材育成	フェリアン 副所長 津村 薫氏	良い職場とは、変化に強い組織であり、積極的に変化を先取りしてゆく姿勢が必要だと学んだ。また、組織の目標を明確に設定し、目標を見失わないこと、それぞれが自分の役割と他メンバーの役割を適切に理解することや、問題は何かを理解し、問題解決を図ること等、人材育成につながる様々なことをお話しいただいた。

看護職・養護教諭研修会（全3回）

日時	テーマ	講師	内容
6月25日 (水)	熱性けいれん・てんかんの正しい 知識と救急対応を学ぶ	大阪旭こども病院 小児専門医 村上 貴孝氏	けいれんやてんかんの原因と頻度、けいれんの種類、けいれん時の対応や保育現場で使える治療薬について詳しく教えていただいた。日々の保育の中で困っていることや、こんなことが知りたい等、講師の先生がこれまでに受けた質問のQ&Aや、受講者の方からの質問にも丁寧にお答えいただいた。
11月4日 (火)	乳幼児の感染症について (感染症対策等)	大阪府済生会中津病院 院長補佐 感染管理室長 医師 安井 良則氏	今、何を予防するのか、対策するのかを正しく理解することが、大切であることを学んだ。 感染症対策を行うためには、まず様々な感染症についての「感染経路」を正しく理解しておく必要がある。感染症対策を行う際、どのような感染症の感染経路を防御するためのものであるかをしっかりと認識しておかなければならない。施設内での主な感染症と感染経路について学び、自園所での感染症対策について改めて考える機会となった。
11月11日 (火)	就学前施設における医療的ケア手技	武庫川女子大学 教授 宇野 里砂氏	医療的ケア児の保育、教育についての写真や映像などを見て、様々な事例を交えながらお話をいただいた。姿勢と運動の発達と生活機能の獲得について深い関係性があることや、様々な医療的ケア（喀痰吸引、バッグバルブ換気等）について、実際に用具を見ながら使い方や注意点等、最新の情報を学んだ。

子育て支援研修会（全4回）

日時	テーマ	講師	内容
6月9日 (月)	「ポジティブ・ディシプリン」の概要について 一親力を伸ばす子育てガイドー	NPO法人きづく 代表理事 森 郁子氏	【ポジティブディシプリン】とは養育者に正解を教えるのではなく、答えを見つけるための提案をするという考え方。何のために子育てをしているのか、どんな大人になって欲しいのか、長期的な目標を考えることを土台とし、ワークを通して課題解決のための方法を学んだ。
9月16日 (火)	気になる子の保護者との関係作り	こども教育宝仙大学 教授 守 巧氏	気になる子の保護者・気になる保護者との関係づくりには、知識とスキルが必要であり、日頃のコミュニケーション（保護者に届く日常的なやり取り）、保護者の視点で物ごとをみること（保護者の言動の“背景”を考える）、保育者自身の思考の傾向を自覚する（自分がどう感じるかを振り返る）ことが大切であることを学んだ。保護者の現在の状況をタイプ別に分け、そのタイプごとの対応のポイントもお話いただいた。
11月12日 (水)	相談援助の基本 ー多様な保護者を理解するためにー	仁愛大学 准教授 青井 夕貴氏	相談援助の基本となるのは、どういう人物なのかを丁寧に情報収集して相手を知り、信頼関係を築くことが大切だと学んだ。4コマ漫画にセリフを入れていくことで、相手が望んでいることなのか、ニーズに合っているのかを考えていった。一緒にできることを確認しながら、最後には自立に向かう、そのために保育者はコミュニケーションの手段（声、態度、表情、視線、距離など）を技法としてもち、チームで対応することも重要だと知った。
10月 ～2月	「“みんなく”って知ってる？」 ～基本的な生活習慣の大切さ どんなふうに伝えますか？～	大阪常磐会大学付属 いずみがおか幼稚園 教頭 伊東 桃代氏	“みんなく”とは睡眠教育＝眠育のことで、基本的な生活習慣の中でも大事なことであるが、あまり重要視されていないことが多い。子どもが園や学校で活発に活動していると思っている保護者が多い一方、職員は睡眠障害による問題行動を把握している。機嫌がいい、頑張れる、生きる力が身に付くためには、脳を休ませ、良質な睡眠を取ることは必要不可欠であると学んだ。10年前より眠育に取り組んでいる中学校や、講師が手掛けた絵本に触れ、保護者が協力していった背景を教えていただいた。

地域型保育事業研修会（全1回）

日時	テーマ	講師	内容
8月26日 (火)	地域型保育施設における強みと課題 ～子どもにより添った保育とは～	南住吉つばさ保育園 園長 中山 有理氏	地域型保育施設は少人数のため、子どもの遊びに立ち止まって一緒に考え、丁寧な保育を目指しやすいが、体制がしっかりしていないと発達に沿った保育にならないため、注意が必要だと知った。乳児保育で大事な発達過程（愛着と分離を繰り返して自立に向かう）を学び、寄り添い方や保護者支援のポイントをお話いただいた。

就学前教育カリキュラム研修会（全4回）

日時	テーマ	講師	内容
5月29日 (木)	子どもに応じた働きかけについて考えよう ～就学前教育カリキュラム 幼児基礎編～	大阪市保育・幼児 教育センター 研修・企画担当 係長	就学前教育カリキュラムを通して、子どもの発達のめやすや、経験させたい活動、ラーニングデザインや参考事例集の活用方法を知る。参考事例集の4歳児の事例を通して、教育的意図をもった働きかけについて考えたり、周りとの意見を話し合ったりすることで学びにつながった。
7月11日 (金)	子どもの育ちについて考えよう ～就学前教育カリキュラム 幼児活用編～	大阪市保育・幼児 教育センター 研修・企画担当 係長	前回の幼児基礎編を振り返り、就学前教育カリキュラムの活用について学んだ。5歳児の事例を通して子どもの育ちを考え、各自の考えを付箋に記入していった。その後のワークでは、5歳児カリキュラムを参考にして、知・徳・体の視点からシールを貼り、振り返った。教育的意図をもった働きかけを考えるポイントや、保育の改善、計画を立てる際にも活用できることを理解した。
9月2日 (火)	子どもに応じた働きかけについて考えよう ～就学前教育カリキュラム 乳児基礎編～	大阪市保育・幼児 教育センター 研修・企画担当 係長	就学前教育カリキュラムの中で、教育的意図をもった働きかけを明確にすることが大切だと学んだ。0歳児の事例を踏まえながら各自のシートに自分で考えた教育的意図をもった働きかけを記入し、ワークを通して交流した。カリキュラムの見方や知・徳・体の捉え方が分かると、保育を多面的に考えたり、見直しをもつことにつながることを知る機会となった。
10月16日 (木)	子どもの育ちについて考えよう ～就学前教育カリキュラム 乳児活用編～	大阪市保育・幼児 教育センター 研修・企画担当 係長	前回の乳児基礎編を振り返り、就学前教育カリキュラムの活用方法について学んだ。2歳児の事例を通して子どもの育ちを考え、各自の考えを付箋に記入し、参加者同士で話し合い、2歳児のカリキュラムを参考にして、知・徳・体の視点からシールを貼り、振り返った。教育的意図をもった働きかけを考えるポイントや、保育の改善、計画を立てる際にも活用できることを理解した。

保幼こ小連携・接続研修会（全2回）

日時	テーマ	講師	内容
7月15日 (火)	幼児教育と小学校教育の連携・接続と 架け橋期のカリキュラム	大阪総合保育大学 特任教授 神長 美津子氏	乗り越えられない「段差」から「段差」を乗り越えてステップアップする取組として「架け橋期カリキュラム」を展開し、架け橋期の教育の充実を図ることが大事である。幼児教育における「深い学び」は夢中になって遊ぶことで、体験と体験がつながって心揺れ動く体験となり深い学びにつながる。「ごっこ遊び」の例を通して、幼児教育と小学校教育の「同じような活動」から互いの子どもの姿を共有し、子どもの生活や教育の方法が異なることを留意することを学んだ。それぞれの立場から歩み寄り、興味や関心を生かした学びを意識することの大切さを学び、保幼こ小のグループワークを通して、今後の取組への意識が高まった。
11月10日 (月)	保幼こ小連携・接続のための相互理解	関西国際大学 准教授 棕田 善之氏	子どもの主体的な活動を支えるために「やってみたい」「知りたい」「できるようになりたい」を大事にすること、「問い」かけることで自ら考え、判断し、行動する経験を積めるようにすることが大切だと学んだ。保幼こ小連携・接続は、就学前施設職員と小学校教職員が互いの教育観を尊重し合いながら、子どもの育ちをつなげようとする対話の中にあり、互いの視点が混ざり合うことで新たな気付きと実践が生まれるというお話をいただいた。

施設長研修会（全4回）

日時	テーマ	講師	内容
6月20日 (金)	実は0歳からの積み重ねが大事！ 日々の保育でできる乳幼児期の性教育	東大和どろんこ保育園 施設長 宮澤 叙栄氏	日本の性教育の現状（命の誕生はコウノトリ任せ、子どもに質問されてもどう答えてよいか分からない等）を知り、なぜ乳幼児期から性教育が必要かを学ぶ。乳幼児期の性教育は「体っていいな」「命ってすごいな」が基本であり、大人が「本当のこと」を伝えることや、自分の命や体を大切に思う気持ちを育むことが大切だということを学んだ。
8月20日 (水)	有効な指導計画の作成と実践について	香川大学 准教授 松井 剛太氏	前半は基本となる考え方、指導計画の位置付け、運用の仕方記録・評価との関連について学んだ。子どもの関心をもとに、指導計画を立てることが重要であり、ウェブ型記録、エマージェント・カリキュラム、OODA、SOAPなど様々な記録方法を知った。後半は、グループワークで、持ち寄ったカリキュラムを見ながら、各園所で工夫していること、計画と評価をどのように関連付けているかなど、情報交換を通して学びを得た。
11月6日 (木)	里親制度について ～社会的養護のこどもたち～	南部こども相談センター 児童相談担当課長 寺内 真起子氏	大阪市のこども相談センター（児童相談所）や、子育て支援室の役割や業務内容について知り、里親制度について学んだ。一時保護所は長期で暮らすことができず、家族や親族以外が引き取れない場合は、施設が里親の元で生活することになり、里親療育のメリットや必要性に触れた。また、里親になるための手続き方法や支援のあり方について、詳しく教えていただいた。
12月24日 (水)	不適切保育・虐待の防止を考える ～2025年の改訂を捉えて～	大阪教育大学 教授 小崎 恭弘氏	児童福祉法改訂の話から始まり、保育施設における通報義務や児童虐待の防止等に関する法律、各法律に基づく虐待の定義、児童福祉法の改訂が目指すもの等、様々なことを学んだ。また、保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン改訂の目的や保育者がとらえるべきポイント、虐待の防止や保育の質の向上のための保育所等における取組についても詳しく学ぶことができた。これまでの概念と定義を整理しながら、ガイドラインに基づく虐待の判断について、事例を基に参加者同士話し合い、学ぶ機会となった。

主任・ミドル級研修会（全3回）

日時	テーマ	講師	内容
8月28日 (木)	職場内の連携・チームづくりに ついて	大阪大谷大学 特任教授 奥蘭 みどり氏	自分らしさを生かし、一人ひとりが専門家としての自覚をもって資質向上に努める上で、自己流に動くのではなく周りや話し合いを進め、園内で風通しのよい関係性をつくるのが大切だと学ぶ。「自園の強みや弱み」「地域や家庭との関わりや強みや弱み」についてグループワークで意見交換し、自園の課題や魅力について知る機会となる。ミドルリーダーとして園運営の発展のために何が必要か考え、適切に園を管理・運営する意識が高まった。
11月26日 (水)	保育にSDGsを取り入れるとは どういうことか？ 一子どもの主体性を育むための保育へー	社会福祉法人樟欅会 副理事長 大阪総合保育大学 非常勤講師 青木 一永氏	ESDはSDGsの実現につながる教育であり、自分の行動が、どんな影響を与えるのかを考え、行動できるチカラを育む教育であることを知った。グループワークでは、様々な投げかけ（自主性と主体性の違いや社会的偏見について等）に対して対話をする中で、相手の意見を否定しないこと、「私が思うには」という言葉から話し始めると、その人の意見なので否定できず有効であることなど、持続可能に向かうコミュニティをどのようにつくるかについて学んだ。
1月26日 (月)	これからの指導計画について	大阪キリスト教短期大学 学長 山本 淳子氏	「若手の課題意識から学ぶ指導計画の捉え方」から課題として、見直しを立てることへの不安（長期・短期共通）については計画は修正される前提で考える。計画の位置付け・役割について、年案は「方向」月案は「仮説」週案は「調整」日案は「判断」として考える。個人作業からチームの思考のツールへとなるように、主任ミドル級は“つなぐ役割”となり、書き方の技術共有ではなく関係性の設計のゴールを目指すことが大切である。これからの指導計画は“子どもの姿から始まる循環へ”指導計画のスタートラインは「計画を書く」ではなく「子どもの姿を記録し、語り合うこと」からと学び、これからの指導計画を考える機会となった。